

# <GLP-1 受容体作動薬>

## ①ビクトーザ

- 現在使用例は4例のみ
- リキスミア含め、今までに効果不良で中止された例もあった

## ②トルリシティ 長期処方開始が2016年10月

- 利点
  - ・注射針があらかじめ取り付けられた、1回使い切りの注入器
  - ・操作が**簡便**
  - ・**1週間に1回**投与であるため、患者の注射への抵抗も緩和され得る
- 欠点
  - ・初期に多いとされる消化器症状などの副作用が、主作用と同様数日間持続する可能性あり
  - ・用量設定が0.75mgのみであり、漸増投与など**用量調節ができない**



GLP-1 受容体作動薬に関しては使用例も少なく、現時点で明確な評価が難しい  
→ 今後適応患者に使用していく中で評価・採用検討を行っていく

○：採用    △：限定採用    ×：非採用

GLP-1 受容体作動薬 対象薬剤	採用 現行→提案	基準
ビクトーザ皮下注18mg	○ → △	GLP-1自体処方例が少ないため、限定採用とする。 使用後の評価で一般採用も検討。
トルリシティ皮下注0.75mg アテオス	× → △	
リキスミア皮下注300μg	△ → ×	現在処方例なし。